

2024.12.19

事業部事業課

## 2024 年度 全国指導者会 正副会長会議・ブロック責任者会議 実施報告書

### 1. 日時・場所

(1) 正副会長会議 2024 年 11 月 26 日 (火) 15:00~17:00 (予定時刻)

※荒天による高速道路の通行規制により、当日は集合時刻に大幅な遅延が生じたため、  
当日 17 時~18 時の間に急遽「副会長および事務局による会議」を実施し、議案内容の最  
終確認を行った。

(2) ブロック責任者会議 2024 年 11 月 27 日 (水) 9:00~17:00

会場：兵庫県南あわじ市 やぶ萬旅館 会議室

### 2. 主席者

・全国指導者会 工藤祐直会長、曾根由多副会長、工藤陽平副会長、ブロック責任者 10 名

※東北ブロック責任者会議 清野昭雄氏は公務都合によりオンライン出席

・B&G 財団 菅原理事長、朝日田常務理事、中島次長、事業課鈴木課長、持田 5 名

・開催地首長挨拶 兵庫県南あわじ市 守本憲弘 市長

### 3. 会議の目的

B & G 全国指導者会（略称：全指会）は、海洋センター・海洋クラブ業務の範囲に関わらず、行政職員やスポーツ施設管理者、地域社会の一員として日ごろから地域づくりや社会貢献に勤しんでいる全国の B & G 指導員、B & G 地域指導者会員の取り組みを一定の方向性にまとめて大きな成果を生み出すために組織された。その代表者・責任者が、会長、副会長、ブロック責任者（10 ブロック 10 名）であり、取り組みの調整・意思決定のため定期的な会議を開催している。

「正副会長会議・ブロック責任者会議」は、例年下半期の前半に行われ、上半期の「全国指導者会目標」事業の進捗状況や、各地の地域指導者会の状況、課題等を共有したうえで、下半期の取り組みや、翌年度の方向性を取り決める目的で開催している。

2024 年度の会議は、今期（第 6 期）の 3 カ年計画（2023 年度～2025 年度）の来年度終了と、第 6 回全国指導者会総会（2026 年 2 月開催予定）で行うべき実績報告を踏まえ、今期の重点活動目標である「自然体験活動を通じた郷土教育」および「食品ロス削減活動」の成果目標の設定を決定することを主目的に実施した。

### 4. 会議概要

#### (1) 開会

①菅原理事長 挨拶

この会議は、B&G 全国指導者会と B&G 海洋センターの来年度の計画・予算に係る重要な会

議の位置づけである。来年度は、3 年に一度開催され、次回で第 6 回目となる総会の開催も東京で計画している。そこで 700 名近くの B&G 指導員が一堂に会し、一致団結して B&G 全国指導者会および B&G 財団が展開する各種事業への賛同を得る場となる。その総会の開催に向け、今回は礎となるべき重要で実りある議論をお願いしたい。

#### ②開催地 南あわじ市 守本憲弘市長 挨拶

会議開催地として皆さまの来訪を歓迎する。全国指導者会の役員、ブロック責任者の皆さまは、厳しい研修を経て地域に戻り地域住民のために精励されると共に、全国の B&G 海洋センターを代表して様々な取り組みをされていると聞いています、敬意を表したい。

B&G 財団の取り組みは、スポーツだけに留まらず、第三の居場所、防災など、時宜を得た課題に対し幅広く、迅速に取り組み自治体を支援していただいている。

当市の海洋センターも 17 年連続「特 A 評価」を得ており、今後も引き続き継続して努力して参りたい。

#### ③全国指導者会 工藤祐直会長（青森県南部町長）挨拶

一年ぶりのブロック責任者会議を心待ちにしてきた。B&G 財団役員、また南あわじ市長の臨席もいただき心強い限りである。皆さまのご理解・ご支援をもって、我々 B&G 指導員はそれぞれの地域で自信をもって事業に取り組むことができる。

本日の会議で、活発な議論を行い、今後の指導者会事業、第 6 回総会への準備に活かしてきましょう。

### （2）2024 年度上半期 全指会活動（継続事業）の進捗報告

2024 年度前半の活動把握のため、11 月に全国の海洋センターに対して実施した「全国指導者会事業および水辺の安全教室 中間評価回答書」の集計結果に基づき、事務局職員から報告を行った。（資料 P3～23）

### （3）2024 年度上半期 全指会活動（重点 2 事業）の報告および審議

#### ①郷土教育および食品ロス削減事業の上期進捗報告

継続事業同様に、「全国指導者会事業 中間評価回答書」の集計結果について事務局職員から報告を行った。（資料 P28-29）

#### ②郷土教育「普及モデル」の実施事例紹介

本期は、「自然体験活動を通じた郷土教育」の普及プログラム（海、川、湖沼、里山、冬・雪）の作成を目的に「普及モデル」を全国 5 カ所の県連協事業として実施している。

その中で、10 月に「海」のモデル事業を実施した香川県連協から事例発表を行った。（資料 P30～37）

・発表者：四国ブロック責任者 佐倉氏（香川県小豆島町 B&G 池田海洋クラブ）

## 【審議事項】

上記①・②について共有を行った上で、昨年度（2023年度）の本会議において、今回会議にて今期3カ年の行うことが確定している「郷土教育」および「食品ロス削減活動」の成果設定について、事務局案（p38およびp39）をもとに審議を行い、次の内容が決定された。

※下記「決定事項」は、「ブロック責任者会議」（11/27）での決定事項、および会議で持ち越しとなり、「副会長・事務局調整会議」（12/19）により後日詳細内容策定を経て決定された事項を一本化して記載。

### ● 「自然体験を通じた郷土教育」決定事項

#### （1）定量目標

B&G 全国指導者会は、2025 年度において「自然体験活動を通じた郷土教育」事業の海洋センター100%実施を定量目標として設定する。

#### （2）定性目標

郷土教育事業を通じた子供たちの変化・変容を測り、その内容を成果として設定する。

##### ◎手法

- ・参加児童の「郷土への理解」の変化を調べるため、1枚の用紙に「体験前／体験後」の前後を記入し、理解度の向上や成長を一目で確認できるアンケートを作成し、実施する。
- ・既存事業に郷土教育の要素を取り入れて実施するケースが多い（新規・単独事業は少ない）ことを考慮し、継続的・連続してアンケートをとらずに、1回のアンケートで済む形とする。
- ・2025 年度の導入に向けて、2024 年度の郷土教育モデル実施の現場等でテスト実施を行い、書式を決定する。

### ● 「食品ロス削減活動」決定事項

#### （1）定量目標

食品ロス削減活動の目標については下記の数字をベースとして今後調査し、設定内容を定める。

① 食品ロスについて、啓発を行った対象者の人数および回数

② 食材について、回収活動を行った日数

※海洋センターに1年間常設の場合は、365 日としてカウントする

③ どのような対象に対して貢献できたが分かれば、B&G 指導員のモチベーション向上に繋がると考えられるため、食材の「譲渡先」についても、参考情報として可能な範囲で調査する。

##### ◎手法

- ・「啓発」について、海洋センターがそれぞれで資料や説明台本を用意するのではなく、全国指導者会が統一した「資料、掲示物、説明台本」を作成し、海洋センターに提示する。 ※2025 年度ブロック総会での「全国指導者会からの報告」にて説明・資料提示を行う。

#### (4) 2025年度「ブロック別指導員研修会」の実施方法と内容

「自然体験活動を通じた郷土教育」の理解促進と実践に向け、重要な位置づけとなる「ブロック別指導員研修会」について、今年度初めて実施した、全国統一の講師・講義内容（動画での講義提供およびワークシートを提供した上のディスカッション等）を振り返った。（資料 P41-47）

##### 【審議事項】

前段の報告と振り返りに鑑み、事務局案として 2025 年度の「ブロック別指導員研修会」を今年度から継続的な内容として、ブラッシュアップを図る内容として実施する案について、審議いただいた。

##### ●2025 年度「ブロック別指導員研修会」決定事項

- ①2024 年度の実施企画書および 2025 年度の計画企画書をもとに、研修に参加した海洋センター担当者とともにグループワークを通じた内容の共有を行い、2024 年度の実施事業内容をよりブラッシュアップする。  
2024 年度に他センターとの合同実施や、未実施となったセンターについては、研修のグループワークを通じて、先行実施センターの実施内容を学び、2025 年度の自センターでの実施に反映させる。

##### ②講師による動画

2024 年度の講師動画「基礎編」に続き、実践編としてステップアップのための講義動画を作製し、研修に使用する。  
講師は、今年度の研修内容との整合性を考慮し、今年度に続き、NPO 法人 Earth Communication 代表の川口眞矢氏とする。

##### 運営方法（詳細）

- ① グループワークは、ランダムに地域・年齢の組み合わせで実施する。
- ② 指導員に準備・持参してもらう書類
  - ・2024 年度実施事業の企画書（「郷土教育」を実施したセンター）
  - ・2025 年度の「企画様式」（新規※）  
新担当者など、企画書を作成して持参するのが難しい担当者もいるため、「地域の魅力として何を伝えるか」などの要素）を絞った新たな様式を作成したうえで、研修のディスカッション資料として持参してもらう。
- ③ 参加の前提条件として、2024 年度版の動画（約 30 分）を、研修会前に事前に視聴する（研修参加前に自センターにて）。
- ④ 事例発表  
新規・単独事業として実施したケースではなく「既存事業にうまく郷土教育要素を取り入れた事例」について、その手法や事例を発表する。

**(5) 2025年度 第6回全国指導者会総会 概要および目標人数※報告事項**

2025年2月25日から26日にかけて開催を計画している第6回「全国指導者会 総会」について、前回第5回総会におけるブロック別の目標人数、実績人数を提示し、第6回総会において、参加目標650人を目指すことが共有された。(資料 P49)

**(6) 第6回全国指導者会総会における褒賞実施方法の改定※報告事項**

はじめに、B&G 財団規程（「指導員褒賞規則」および「指導者会褒賞要領」）を提示すると共に、過去の褒賞者一覧を共有した。

次いで、B&G 指導員褒賞（ゴールド褒賞、シルバー褒賞）の大幅変更（対象者を1名とする、顕著な活躍をしている指導員を対象とするもの）、B&G 指導者会褒賞の総会での褒賞停止、日本財団笹川会長 指導員褒賞の継続実施について、事務局から報告が行われた。

(資料 P50-60)

**(7) 第6期 全国指導者会ブロック責任者の選定※承認事項**

第5期ブロック責任者10名のうち、今期で退任する5名（5ブロック）について、新たな責任者候補5名（5ブロック）の紹介が事務局から行われ、全会一致の承認を得た。(資料 P61-63)

以上